

## 2015年度京都造形芸術大学入学式 式辞

2015年4月2日（木曜日）

尾池和夫

京都造形芸術大学芸術学部に入学者783名の皆さん、京都造形芸術大学大学院芸術研究科修士課程に入学者63名の皆さん、博士課程に入られた5名の皆さん、入学おめでとうございます。列席の瓜生山学園の役員、副学長、学部長、研究科長、すべての教職員とともに、皆さんの入学を、心からお祝い申し上げます。

今年入学された方々は、日本の各地から、世界の各地から、この京都、瓜生山にある京都造形芸術大学を学習の場として選んで入学されました。私たち瓜生山学園全体の役員、教職員が皆さんのその期待にしっかりと応えるよう、できるだけ準備をしてこの入学式に臨んでいます。

この日までの皆さんの人生を支えてこられたご家族の皆さまにも、こころからお祝い申し上げますとともに、大学生となられたご家族の一員の、独立した社会人として成長していく過程を、静かに、またしっかりと見守ってあげていただきたいと思います。

今年3月14日の卒業式で、本学通学部の出身者は、博士30名、修士817名、学士9047名となりました。皆さんの先輩たちが世界で活躍しています。その様子を、さまざまの機会にしっかりと見ていただきたいと思います。例えば今、京都の街のあちらこちらで、「京都国際現代芸術祭2015」が開催されています。また、多くの美術館や博物館などの施設で、学生証で優待を受けることができます。学生手帳をよく読んで、それらをできるだけ活用してほしいと思います。

ちょうど今、京都盆地ではさまざまな種類の桜が満開になっています。一昨日、私も哲学の道の桜を見て歩きました。猿の絵で知られる日本画家橋本関雪は、銀閣寺へ向かう道の南側に、1916（大正5）年に住居と画室を構えて白沙村荘と名付けました。哲学の道の桜はその橋本関雪と妻よねが、1922年に京都市に苗木を寄贈したものです。染井吉野は樹齢が短いのですが、代替わりした今もこの桜は関雪桜と呼ばれています。花見とともに橋本関雪記念館を訪れてみてください。

桜の原産地はヒマラヤと言われ、北半球の温帯に広く分布しています。桜は突然変異の頻度が高いということから園芸種が多くできており、それをまとめて里桜と呼びます。里桜の代表である、染井吉野は薬から増やしたので、全国の染井吉野がクローンになっており、同じ気候条件で一斉に咲きます。

江戸彼岸をもとに京都で生み出された枝垂桜は長寿です。その枝垂桜の若木が、この大学のキャンパスに3本、新しく植えられました。この新しい3本の枝垂桜が迎える新入生

は、今年の皆さんが初めてです。皆さんとともに成長する桜の木を、よく観察してください。学園歌「59段の架け橋」の20段を昇ったあたりの北側に、3本の若木のうちの1本が、みごとに花を付けているのに気づいた方もおられることでしょう。

桜のことを話したのは、3つのことを皆さんに伝えたかったからです。1つは、1300年の悠久の歴史を持つ京都の街のことを、在学中に少しでも知ってほしいということです。京都の街のあらゆる所に歴史があります。2つめは、科学の知識を大いに取り入れて、それを創作活動に活かしてほしいということです。桜1つを取り上げてみても、さまざまな知識がそこにあります。3つめは、自然をよく観察してほしいということです。日本列島は豊かな自然をもつ大地です。その利点を活かして自然を観察し、創作の前に自然があるということをいつも意識しておいてほしいと思います。

この大学は、松平定知教授が力強く読み上げた「京都文藝復興」を理念としている大学です。新しい世紀を迎えようとした時期に、本学を設立した徳山詳直さんが書きました。芸術文化探求へのとどまることのない研鑽が、人類の未来を、希望あるものへ導くと私も信じて、教育の現場に立ちます。大階段を登った場所には「芸術立国之碑」が立っています。そこに刻まれた言葉を読み、その意味を考えながら、また、「京都文藝復興」の意味を考えながら、今日からの学園生活を、力一杯、楽しんでほしいと思います。そして学位を取得する日に向かって、苦しいことがあってもくじけることなく、制作と学習に励んでくださることを期待して私の式辞といたします。

入学式を迎えた皆さん、本当におめでとうございます。

ありがとうございました。